

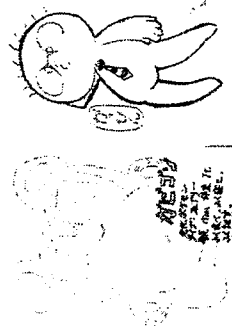
総合市民センター
☎(24)9511 ㊟(23)7444
㊟祝日、年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう！

旧本の古典文学 旅

+ちよっとウラ話

6月5日㊟、8月7日㊟、11月13日㊟、
令和9年1月29日㊟10時～11時30分
／内容＝日記等の作品を読む事で日
本文化を知る／講師＝伊藤 雅敏先
生／対象＝市内在住者／定員＝35人
(申込順)／申込＝4月17日㊟9時～
電話にて※土日とも17時まで申込可



ちよっとウラ話

I

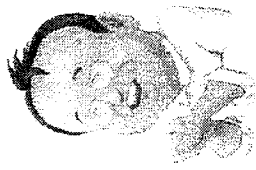
NO.

令和六年六月五日(金)

十時～

森倉まこと

「日本の古典文学 旅」



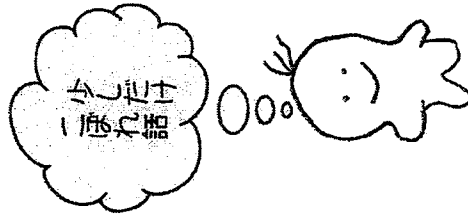
ガビン先生と
楽しく学ぼう



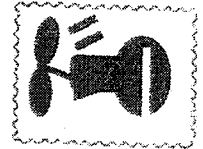
①

茂原市文芸協会 総会

令和八年四月二十六日(日)
十四時
茂原市総合市民センターにて



伊藤雅敏
ガビン



「サラダ記念日」

俵万智

昭和62(1987)

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と
答える人のいるあたたかさ

- ・オウム真理教設立
- ・丙午 出生率戦後最低 134万人
令和7年 70万人
- ・アサヒスーパードライ 大ヒット
- ・花王洗剤「アタック」
- ・中曽根内閣
- ・国鉄からJRへ
- ・朝日新聞社阪神支局銃撃
- ・石原裕次郎逝去
- ・「雪国」
- ・「ガラスの十代」
- ・マイケルジャクソン幸楽苑コンサート
- ・おにゃん子クラブ解散

令和ってなに?

天保2年(730年)正月73日

我が園に
梅の花散る
ひさかたの
天より雪の
流れ来るかも
大伴旅人

正月の祝宴の華やかさ

福岡県太宰府の長官(大伴旅人)宅で梅花の宴

外交の入口の役目+海外との文化交流の窓口

梅=中国から渡来した流行の最先端の花

漢詩の文化 花と言えは「梅」

貴族の教養+政治とのつながり

宴会ではあるがドンチャン騒ぎは無い

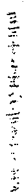
【背景】

藤原氏の陰謀により、左遷 「長屋王の変」

『あそころは たのしかつたなあ...』

『なかなかに 人とあらずは
酒壺に なりにてしかも
酒に染みなむ』
なまじつか人として生きていない
で
いつそ酒壺になって
一生 酒に漬かっていたものだ
大伴旅人





新元号「令和」華集記念講座

大伴旅人

酒に漬かして
いたいたいの
だ

五

2. 4. 2. 5. 6. 7.

乙卯年二月

なまじりか人として

酒に染み込む

7
10
7
2
2
4
5
2
亞
區

二、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

大伴旅人

流氷來乃

天よりの雪の

我園內之梅花散

二に庭の梅を題として、まず短歌を作りました。

諸君よ、落梅の詩歌を所望したいが昔も今も風流を愛するところには変わりが無いのだ。

[illegible]

さつぱりとして各自氣樂に振る舞い愉快になつて各自満ち足りた思ひである。

一室の内では言言言言も忘れはるほど楽しく和やかであり、外の大氣に向かつて心をくつろがせる。

そゝで天を屋根に地を席にし互いに膝を近づけ酒杯をまわす。
あし

उत्तर

庭には今年生まれの蝶が舞っており空には去年の雁が帰つて行く。

夕方の山の頂上には霧がかかつて、鳥はその霧の穀に封じ込められて林の中に迷ひ入つてゐる。

ജനകീ

いまたき

そればかりで、はい、夜明けの峰には雲がさしかかり、松の雲の羅の雲をまじつて、蓋をかいたかのように見え、

1748

11

梅は鏡の前の白粉のよじりに白く咲き、蘭は匂い袋のよじりに香つてゐる。

折しも初春の正月の佳よい月で気は良く風はおだやかである。

太幸の帥旅大旅人卿の邸宅に集まつて宴會を開く。

大伴旅人

序文(中国の詩序をまねる) ↓ [蘭亭集序] 王羲之(おのぎぎし)

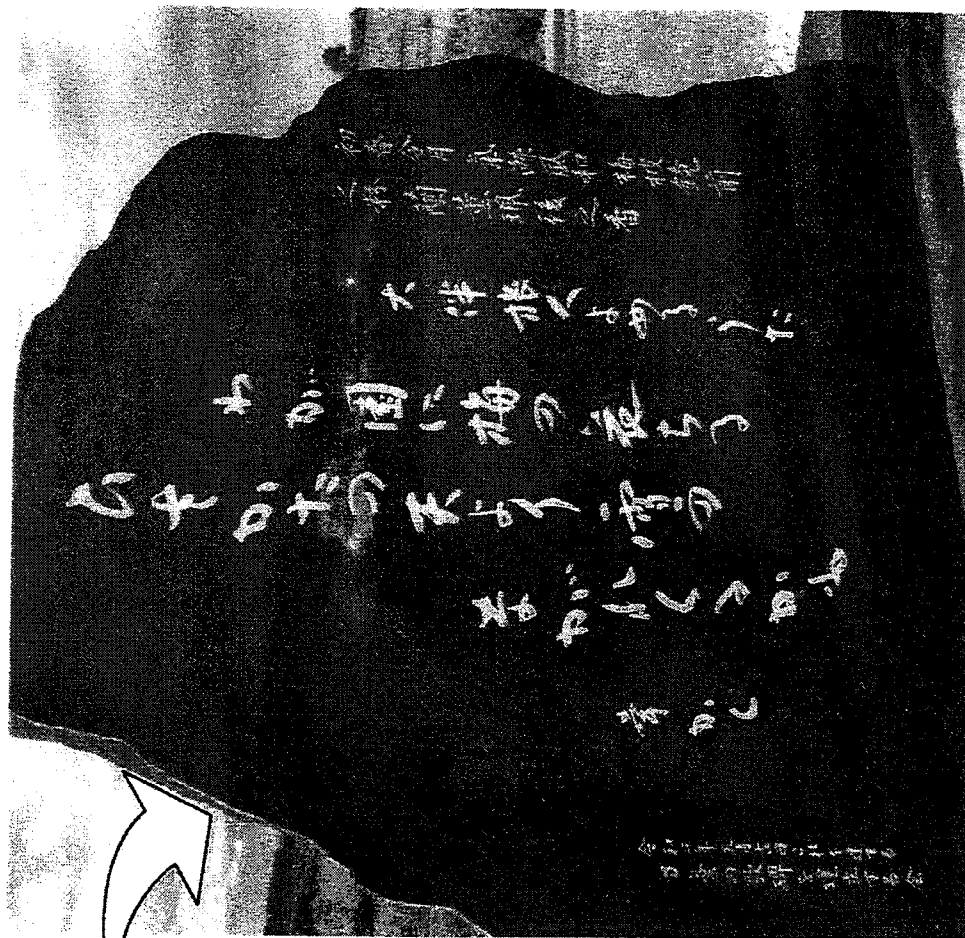
万葉集
815

梅花の歌、序

奈良時代 「うまぐた」 = 宇麻具多



現代 「まぐた」



萬葉集 卷五

初春令月

氣淑風和

梅披鏡前之粉

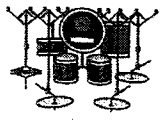
蘭薰珮後之香

初春の令月にして

氣淑く風和らぎ

梅は鏡前の粉を披ぎ

蘭は珮後の香を薫らす



「光」M.C.ツナナ無月011
「の」を研を

悲歌 9102
「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を



【本瓶】

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

「の」を研を

万葉集 1693

柿本人麿 紀伊国作歌二首

8

玉匣

たまぐしげ

秋詞 (玉匣のふたを開けるように)

明^開

卷惜

あけもくばしき、明けるが惜い夜

恠夜矣

あたらしきを

も^夜に^は

袖可礼而

こもでがれて

共に寝るがはれ私に

一鴨將寐

ひとりがあねむ

そは夜も
ひとりで寝るがは

たまぐしげ

あけもくばしき

あたらしきを

こもでがれて

ひとりがあねむ

柿本人麿

和歌
連歌
・奈良時代に原型 五五発句
・平安時代 長句五七五 短句七七 協句 複数を連歌
・鎌倉時代 御儀鳥羽院 百句成主義
和歌も盛んで
二句の成りに宿る心の響き
・室町時代
1488 長享二年正月十二日 水無瀬二吟首額
鳥羽院に奉納 大徳寺鳥羽本所に眠る
二吟... 宗誠 一首 橋 一 宗長

江戸
俳諧の連歌
「貞門俳諧」
松永貞徳
技巧飛騨語
折詞語
文芸としての文芸
「時宗鑑」 一夜庵 1528
談林俳諧
西山宗因
風雅より
面機知郎
人口の机
上の客人 立去り
中の客人 日歸り
下の客人 下

俳諧
松永貞徳 一句 俳句
連歌
正因寺
俳句は文芸なり
連作は文芸に非ず
小休 二 左
現

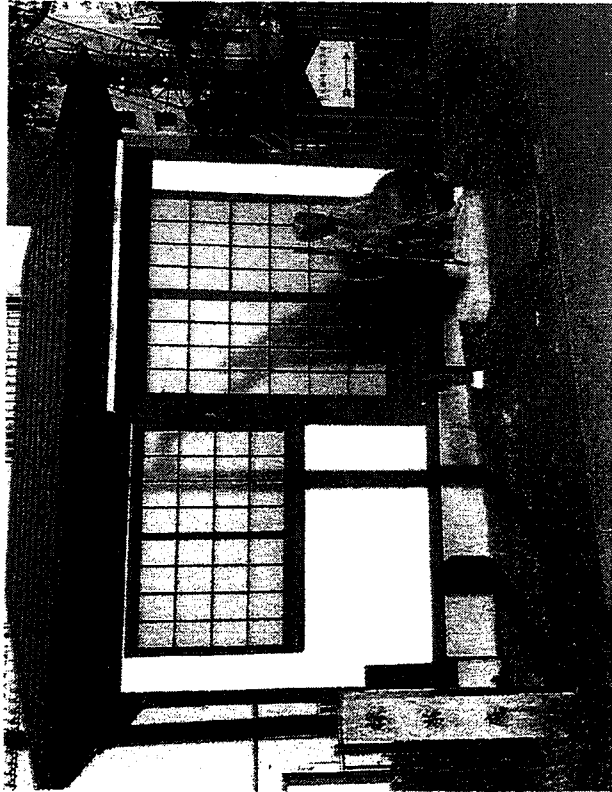


「旧芭蕉庵跡」
現 芭蕉稲荷神社

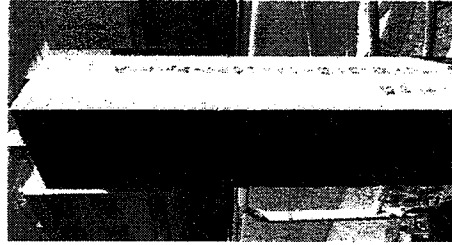


「シニ芭蕉庵」?

隅田川を望む芭蕉→



「採茶庵跡」 正面



「旧新大橋跡」



「採茶庵跡」 左から

1582 10/4 芭蕉庵 10/15

1689 (元禄2) 江戸出版
旧 3月27日

⑩

「佐頼随船」

言葉をもたず 遊び

①

源佐頼 1113 成立 歌謡書... 新一き道

にをみえして 珍一き師を求め

詞をかぎり 詠むべきなり

(連歌)

奥山に 船漕ぐ音の聞ゆるは... 月河躬恒

なれる木の実は 海渡るらむ... 経實之

山の中で船をこぐ音が... 雄草を咲かせた大輪の花
野村長也

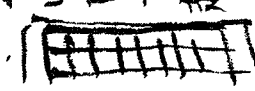
熟している木の実は 海を渡っているなら... しじみト

船をこぐ音が... 不思議では... かとも花
長嶋長雄

[Q]

(1) 8/24... 何の日? (毎日24日は一日一日)

(2) 玉三郎の世界 ついて越一にのぞく。

(3) 松江大橋を渡る下駄の音は?  若く娘と熟年の違い。

(4) 5/16... 何の日?